

STAGE+を楽しむ(314)(HP 収載)

—ハイドンのエステルハージ宮殿時代の交響曲三部作—

1. 始めに

前報(313)に引き続き、STAGE+のハイドンが活躍したエステルハージ宮殿時代の交響曲三部作の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、前報(313)に引き続きハイドンが活躍したエステルハージ宮殿時代の交響曲三部作を選びました。

ハイドンが活躍したエステルハージ宮殿に響く交響曲三部作《朝》《昼》《晩》

イル・ジャルディーノ・アルモニコ

収録日: 2025 年 6 月 28 日

ジョヴァンニ・アントニーニ率いるイル・ジャルディーノ・アルモニコの演奏をお届けします。今回披露するのは、ハイドンが 1961 年、エステルハージ公爵の宮廷にデビューした際に演奏したとされる、3 つの初期交響曲。いずれの作品も、同地の楽団の演奏家の卓越した技量を引き出す力作となりました。《朝》を標題とした作品で始まり、活気あふれる《昼》を経て、《晩》の嵐の描写で幕を下ろします。ハイドンのスペシャリストたちが贈る、音楽の愉悅に満ちた一日を巡る旅をどうぞお楽しみください。

ソリスト:

ケイト・リンジー (メゾソプラノ)

演奏:

イル・ジャルディーノ・アルモニコ

指揮:

ジョヴァンニ・アントニーニ

曲目:

ヨーゼフ・ハイドン 交響曲第 6 番ニ長調 Hob. I:6 《朝》

ヨーゼフ・ハイドン カンタータ《ナクソスのアリアンナ》 Hob.XXVIb:2

ケイト・リンジー(メゾソプラノ)

ヨーゼフ・ハイドン 交響曲第 7 番ハ長調 Hob. I:7 《昼》

ヨーゼフ・ハイドン 交響曲第 8 番ト長調 Hob. I:8 《晩》



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への **Crystal EpY-G** の接続を継続し、PC の仮想アース **Crystal E Jtune** を連結しています。

また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に **OPT ISO BOX** を適用し、**OPT ISO BOX** の AC アダプターの DC ケーブルに **FX Audio** の **Petit Susie Solid State** を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、**LAN iPurifier Pro** の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信からクロック入力 of 修理済の **Brooklyn DAC+** に送り出しています。

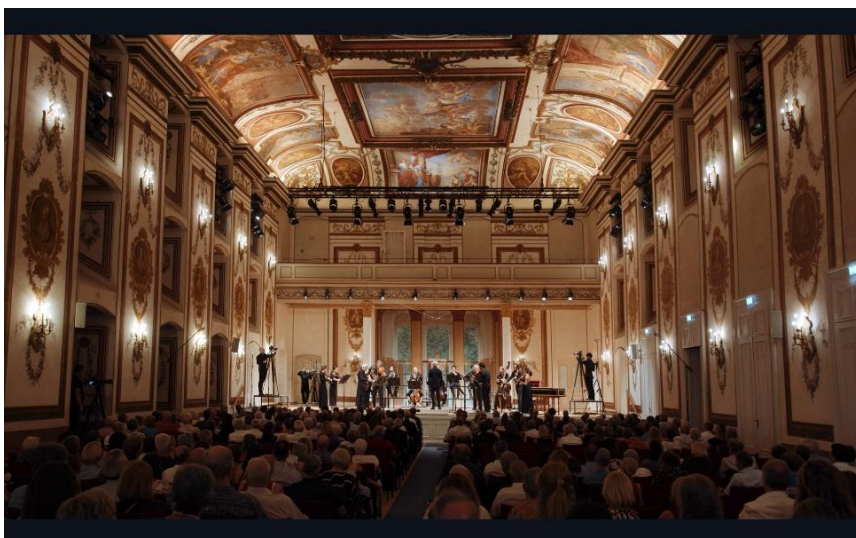
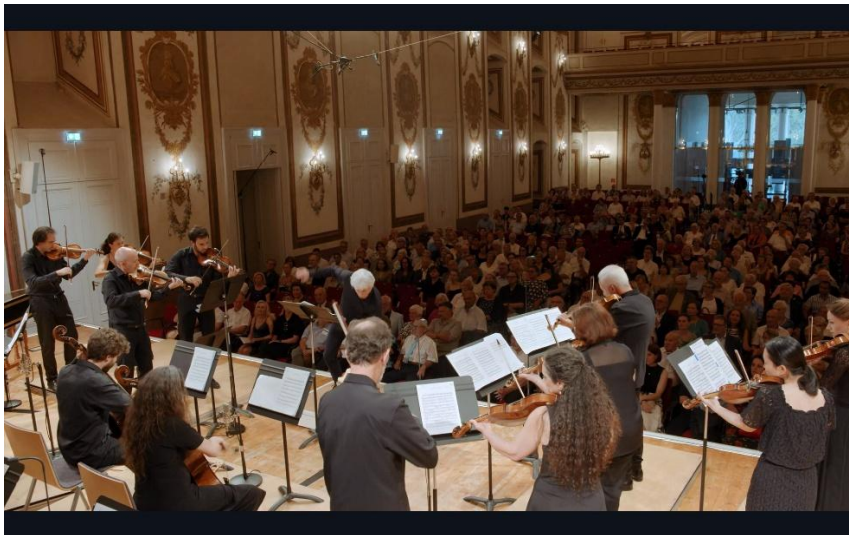
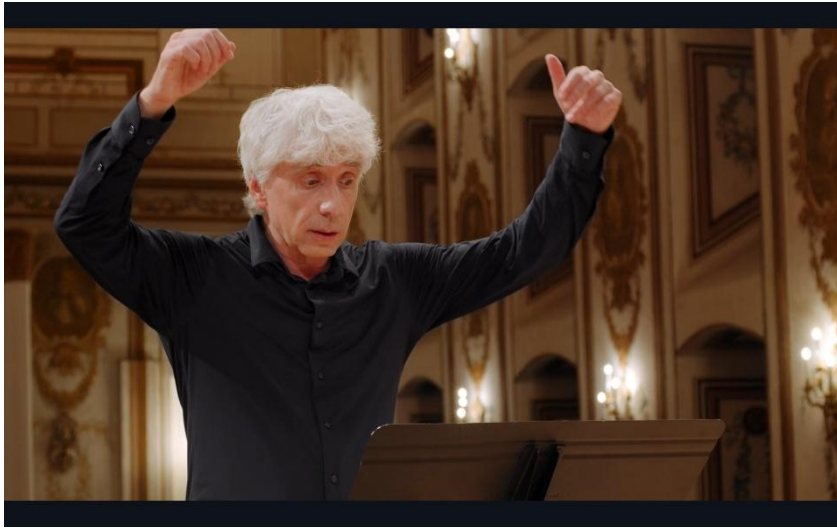
また、下記のとおり、PC と **Brooklyn DAC+** の間の介在は、**iPurifier USB** からインフラノイズの **USB アキュライザー** に交換しています。クロック入力は **ABS-7777** を適用しています。

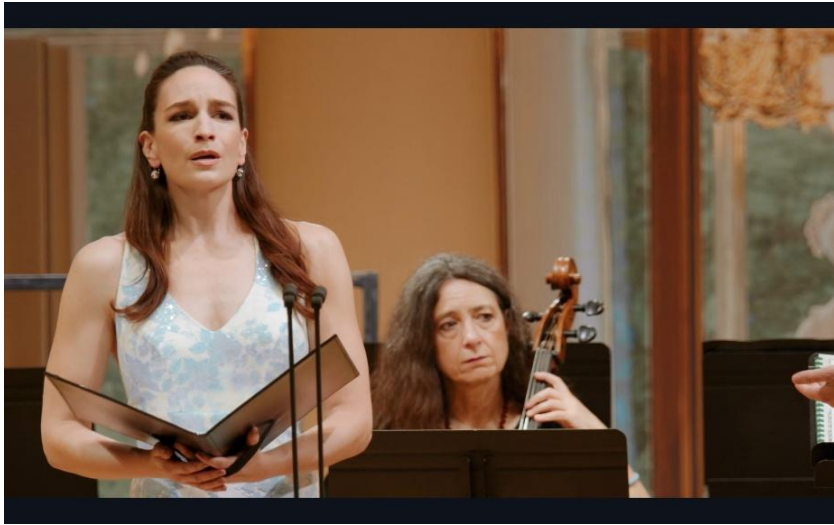
ハイドンが活躍したエステルハージ宮殿の豪華な一室における収録です。

イル・ジャルディーノ・アルモニコの演奏は、ハイドン時代の古楽器を使用しており、現代楽器で演奏されることの多いハイドンの交響曲とは趣がことなり、個々の古楽器の質感がよく再現されています。

近接マイクでの収録ですが、エステルハージ宮殿内の響きも豊かで、リンジーのメゾソプラノの声の質感もしっかりとらえられています。

ヨーゼフ・ハイドンは、1761 年に音楽好きのエステルハージ家に雇われ、副楽長を経て楽長になり、楽団の経営と新しい作品の作曲と公演を行っていますので、今回の収録は、まさにエステルハージ時代の演奏の再現と断言してもいいかもしれません。





4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777 からのクロック入力の Brooklyn DAC+ に送り出し、PC と Brooklyn DAC+ の間には USB アキュライザーに交換した結果、豪華な宮殿で古楽器により収録されたハイドンのエステルハージ時代の演奏の再現のような雰囲気が出ていました。

以上